

要因が響いているが、金融債の消化地合いは総じてひとところに比べてやや持直しぎみである。また、新規長期国債の証券会社一般募集分(36億円、前月35億円)は、個人応募の好伸のほか、証券会社の販売努力もあって満額消化をみた。

7月の起債(純増ベース、国債、金融債を除く)は、438億円と前月(494億円)を大幅に下回る見込みであるが、これは政保債の償還増が主因である。事業債については、消化環境が依然不ぞえのため、引き続き起債抑制が続けられている。なお、新規長期国債の市中引受け額は100億円(前月、前年同月と同額)、うち証券会社一般募集分は36億円と決定された。

実体経済の動向

◇生産、出荷の増勢続く

(生産——引き続き増加)

鉱工業生産(季節調整済み)は、5月+0.3%とやや伸び悩みのあと、6月(速報)は一般資本財、耐久消費財、生産財等の増加を中心に+1.6%と再びかなりの増勢を示し、この結果4~6月(6月速報による試算)では前期比+6.4%と、四半期の伸び率としては35年1~3月(+6.5%)以来の最高を示した(今次景気上昇期中の最高は41年10~12月の+5.6%)。4~6月の生産の伸び率は、42年以降の四半期平均伸び率(+4.1%)を大幅に上回っているが、他方生産水準としてみても、4~6月の生産水準は、1~3月の伸び悩み分を完全に回復したうえ、42年以降のすう勢をむしろ若干上回る高い水準を示している。

最近の動きを財別にやや詳しくみると次のとおり。

一般資本財……5月は前月著増した化学機械、ボイラー・原動機等の反動減から、さすがに小幅

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	43 年			44 年	44 年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4月	5月	6月
鉱 指 数	156.1	162.4	169.9	171.7	181.4	181.9	—
工 前期(月)比	5.4	4.0	4.6	1.1	6.0	0.3	1.6
業 前年同期(月)比	18.4	17.5	17.6	15.5	17.9	15.8	16.8
投 資 財	5.6	4.4	7.3	0.2	7.2	-2.2	2.0
資 本 財	6.5	6.0	7.7	-0.7	7.6	-2.0	2.9
同 (輸送機械を除く)	9.6	1.4	9.5	1.5	10.6	-1.2	3.5
輸 送 機 械	1.0	15.0	3.9	-3.9	1.5	-2.0	—
建 設 資 材	3.1	0.6	6.8	1.9	6.3	-1.5	-1.0
消 費 財	9.0	1.7	3.7	-0.8	7.6	2.3	1.7
耐 久 消 費 財	10.8	5.1	6.3	1.5	8.4	0.9	1.8
非 耐 久 消 費 財	5.4	-0.1	2.0	-0.3	4.6	3.2	0.4
生 産 財	2.4	5.3	3.6	3.0	3.5	1.0	1.3

(注) 1. 通産省調べ、44年6月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

の減少(−1.2%)となったが、6月は電動機(標準・非標準電動機)、非標準変圧器、圧縮機・送風機、化学機械等を中心にかなり大幅な増加(+3.5%)。

資本財輸送機械……5月は鉄道車両、産業車両が増加したものの、船舶が著減したため減少(−2.0%)。6月は鉄道車両、船舶の増加を主因に再び増加した模様。この間トラックは2ヵ月連続して微減。

建設資材……4月著増のあと、5月−1.5%、6月−1.0%と続落。5月はみがき板ガラス、板ガラス等、6月は橋りょう、塩ビ(硬質)、みがき板ガラス等の減少がそれぞれ目だっている。

耐久消費財……5月は乗用車が軽四輪を主体に減少したものの、家電製品(洗たく機、冷蔵庫)、カラーテレビ、時計等を中心に+0.9%の増加。6月も乗用車が軽四輪を主体に引き続き減少となったほか、エアコンディショナー、扇風機等が減少したにもかかわらず、カラーテレビの著増や映画撮影機、腕時計等を中心にかなりの増加(+1.8%)。

非耐久消費財……医薬品、食料品、繊維二次製品を中心に5月+3.2%と増加したあと、6月も+0.4%の増加。

生産財……5月は鉄鋼、非鉄地金、化学製品等を中心に+1.0%の増加。6月も鉄鋼(粗鋼、普通鋼熱間圧延鋼材)、非鉄(電気銅)、機械部品(変速機、軸受け、ドリル)、繊維(綿糸、綿織物、合繊織物)等を中心に+1.3%と引き続いて根強い増加。

(出荷——増勢続くも耐久消費財は伸び悩み)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、5月+0.5%とやや伸び悩みのあと、6月(速報)は+1.6%の増加を示し、4〜6月を通計(6月速報による試算)すると、前期比+6.0%の大幅増加となった。もっとも6月の出荷の増加は、主として前2ヵ月著減した船舶の大幅反動増によるもので、例月フレの大きい船舶、鉄道車両、食料品を除いた伸び率は+0.3%の微増にとどまっている。財別にみると、一般資本財が相当大幅な増加を続けている反

面、これまで好調な伸びを示してきた耐久消費財が、エアコンディショナー、扇風機等の出荷著減を主因に減少を示したのが注目される。

最近の動きを財別にやや詳しくみると次のとおり。

一般資本財……5月は化学機械、農業用機械が大幅な反動減を示したものの、ボイラー・原動機、産業機械、事務用機械、電動機等を中心に+2.0%の増加。6月は化学機械が増加したほか、圧延機、鉄鋼用ロール、非標準電動機、非標準変圧器等が増加したため、+1.6%と引き続いて増加。

資本財輸送機械……5月−9.8%と著減したあと、6月は大幅に増加した模様。いずれも船舶の不規則な変動が主因であるが、この間トラックは小幅ながら減少を続けた。

建設資材……5月横ばいのあと、6月はみがき板ガラス、鉄筋コンクリート管、コンクリートパイル、塩ビ(硬質)等を中心に−1.1%の減少。

耐久消費財……5月は、家電製品が前月著増の反動もあって洗たく機、冷蔵庫等を中心に減少したものの、乗用車、カラーテレビ等が増加したため、+0.3%の微増。6月はカラーテレビの著増

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	43 年			44 年	44 年		
	4〜6月	7〜9月	10〜12月	1〜3月	4月	5月	6月
鉱 指 数	154.1	157.3	162.7	168.5	177.0	177.9	—
工 前期(月)比	5.1	2.1	3.4	3.6	2.8	0.5	1.6
業 前年同期(月)比	17.9	14.8	15.9	14.9	16.8	14.2	1.74
投 資 財	5.5	1.3	4.9	3.6	2.8	1.7	4.5
資 本 財	6.5	1.9	4.5	4.0	2.1	2.1	6.6
同 (輸送機械を除く)	9.6	0.4	9.5	1.4	5.3	2.0	1.6
輸 送 機 械	0.6	6.0	3.3	2.3	3.8	9.8	—
建 設 資 材	3.8	0.8	5.8	0.7	5.5	0	1.1
消 費 財	7.8	0.2	2.9	4.6	4.2	2.0	2.0
耐 久 消 費 財	12.2	7.3	2.7	5.7	6.0	0.3	1.5
非 耐 久 消 費 財	5.3	2.6	3.3	2.8	3.0	2.5	1.7
生 産 財	2.9	4.4	2.6	2.6	3.3	0.7	1.2

(注) 1. 通産省調べ、44年6月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

にもかかわらず、エアコンディショナー、扇風機、乗用車(軽、小型)の減少を主因に -1.5%の減少。

非耐久消費財……5月は、たばこ、医薬品が相当大幅な増加を示したほか、食料品、繊維二次製品等も増加したため、+2.5%の増加。6月はたばこの著減を主因に -1.7%の減少。

生産財……鉄鋼、非鉄地金、化学製品等を中心に5月+0.7%と増加したあと、6月も(鉄鋼、粗鋼、普通鋼鋼材)、機械部品、繊維(綿糸、綿織物等)が増加したため、石油製品(ガソリン、ナフサ、軽油)の減少にもかかわらず、+1.2%の増加。

(在庫——耐久消費財を主体に増加)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、5月+0.6%のあと、6月(速報)は+2.0%と再びかなりの増加を示した。内容的には、エアコンディショナーやその他の夏物家電製品を主体とする耐久消費財の増加が目だっているほか、生産財も非鉄(電気銅)、化学製品(化学肥料)等を中心に増加したが、反面一般資本財、資本財輸送機械、建設資材等は減少を示した。こうした在庫の動きを映じて

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	43 年			44 年	44 年		
	6 月	9 月	12 月	3 月	4 月	5 月	6 月
鉱 指 数	135.9	143.2	156.0	159.3	163.2	164.2	—
工 前 期(月)末比	2.6	5.4	8.9	2.1	2.5	0.6	2.0
業 前 年 同 期(月)末比	22.1	23.6	25.4	21.1	23.3	21.9	26.2
製 品 在 庫 率 指 数	88.3	89.8	95.9	92.5	92.2	92.3	92.7
投 資 財	-2.3	11.9	11.4	4.7	2.1	0.1	-0.8
資 本 財	-6.0	13.8	11.4	5.9	-0.5	0.1	-1.5
同 (輸送機械を除く)	2.4	6.4	13.6	8.8	0.8	1.7	-1.4
輸 送 機 械	-33.7	42.3	10.9	-5.5	-5.4	-8.4	—
建 設 資 材	2.1	9.6	11.6	3.6	4.8	0.8	-0.3
消 費 財	6.4	6.5	12.1	-4.2	3.3	1.1	4.2
耐 久 消 費 財	10.5	8.4	16.3	3.7	7.7	3.8	6.8
非 耐 久 消 費 財	5.1	3.9	6.7	-7.6	0.1	0.5	1.0
生 産 財	1.4	1.5	4.5	8.6	1.6	0.6	2.2

(注) 1. 通産省調べ、44年6月は速報。

2. 前年同期(月)末比は原指数による。

6月の製品在庫率指数は92.7と前月比+0.4%の上昇を示したが、財別にはかなりの差異があり、一般資本財、資本財輸送機械、非耐久消費財等の在庫率指数が低下している反面、耐久消費財の在庫率指数は6月110.0と、前月比+8.5%の大幅上昇を示している。

最近の動きを財別にやや詳しくみると次のとおり。

一般資本財……5月は風水力機械(ポンプ)、農業用機械、事務用機械、標準電動機等を中心に+1.7%の増加を示したものの、6月は農業用機械、鉄鋼用ロール、銅電線ケーブル等の減少から-1.4%の減少。

資本財輸送機械……5月に-8.4%の減少を示したあと、6月も減少した模様。トラックがほとんど各車種にわたって減少を示しているのが主因。

建設資材……建設用金属製品(とくにアルミサッシ)を中心に5月+0.8%と微増したあと、6月はセメント、みがき板ガラスを中心に-0.3%の減少。

耐久消費財……5月は乗用車が減少したものの、家電製品(洗たく機、冷蔵庫)、エアコンディショナー、時計等が増加したため+3.8%の増加。6月も出荷の急増を映じたカラーテレビの著減にもかかわらず、エアコンディショナー、冷蔵庫、扇風機等の売れ行き不振から、+6.8%の大幅増加。

非耐久消費財……食料品の増加を主因に5月+0.5%と微増したあと、6月はたばこ等を中心に+1.0%の増加。

生産財……5月は鉄鋼、非鉄地金、化学製品(化学肥料、繊維原料等)を中心に+0.6%の増加。6月は非鉄(電気銅、亜鉛)、化学製品(化学肥料、ソーダ工業薬品)が著増したほか、鉛電池、汎用内燃機関等も増加したため、+2.2%とかなりの増加。

5月の製造業原材料在庫(季節調整済み)は、前2か月統落のあと、前月比横ばいにとどまった。

原材料在庫がこのような落ち着いた動きを示しているのは、国産分素原材料(銅鉱、石灰石等)の増加にもかかわらず、国産分製品原材料(船舶用鋼材、溶解パルプ等)が伸び悩んだこと、および輸入分原材料が鉄鉱石、ボーキサイト、綿花、牛皮等を中心に4ヵ月連続の減少を示したことによるものである。なお業種別にみると、船舶が大幅に減少したほか、鉄鋼、非鉄、皮革等が減少を示した反面、石油、金属製品等が増加を示した。以上のような原材料在庫の動きに対して、原材料消費は5月+1.7%と引き続き増加したため、5月の

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43 年			44 年		
	9月	12月	3月	3月	4月	5月
在庫指数	131.3	140.1	141.6	141.6	138.5	138.4
前期(月)末比	0.9	6.7	1.1	-0.8	-2.2	0
国産分	-2.0	6.3	1.3	-0.4	-0.7	0.1
素原材料	-1.7	11.0	-0.9	-2.2	-6.2	4.3
製品原材料	-2.0	4.4	2.2	-0.4	0.9	-0.8
輸入分	10.2	8.2	0.4	-0.4	-6.8	-1.4
素原材料	10.8	7.7	0.4	-0.5	-6.9	-1.2
在庫率指数	83.5	87.2	84.2	84.2	80.5	79.1
国産分	78.6	82.2	79.6	79.6	77.1	75.8
素原材料	91.3	99.1	94.4	94.4	88.5	89.9
製品原材料	77.0	79.2	77.2	77.2	75.8	74.1
輸入分	103.2	103.4	97.7	97.7	91.8	90.0
素原材料	105.0	105.3	100.4	100.4	94.2	92.1

(注) 通産省調べ、44年5月は暫定。

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	43 年			44 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
製造工業	4.0	2.7	3.9	1.5	2.3	1.7
国産分	4.1	2.4	3.7	1.4	2.4	1.8
素原材料	3.7	3.2	3.4	1.4	0	2.7
製品原材料	4.2	2.4	3.7	1.5	2.9	1.5
輸入分	2.8	4.7	6.6	3.5	-0.7	0.6
素原材料	3.1	3.9	5.8	3.2	-0.8	1.0
製品原材料	-1.4	14.6	14.1	7.5	0.6	-3.5

(注) 通産省調べ、44年5月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43年		44年	44 年		
	9月	12月	3月	2月	3月	4月
総合指数	142.4	147.9	146.9	150.2	146.9	141.8
前期(月)末比	13.0	3.9	-0.7	-1.4	-2.2	-3.5
素原材料	30.2	1.1	-27.2	-7.5	-18.3	-11.2
製品	11.5	4.5	1.8	-1.0	-0.5	-2.8

(注) 通産省調べ、44年4月は暫定。

原材料在庫率指数は79.1と、これまでの最低である前月(80.5、ちなみにそれ以前のボトムは43年8月の83.3)をさらに-1.7%下回った。

4月の販売業者在庫(季節調整済み)は、2月-1.4%、3月-2.2%のあと、-3.5%と3ヵ月連続して相当大幅な減少を示した。品目別にみると、自動車(乗用車、トラック)、石油製品(ガソリン、軽油)、繊維原料(綿花)、鋼材(普通鋼圧延鋼材)、非鉄(電気銅、電気鉛)等の減少が目だっている。

(設備投資——機械受注は着実な増加)

設備投資動向と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)の動きをみると、5月+2.0%のあと6月(速報)も+1.6%の増加を示し、この結果4~6月(6月速報による試算)では前期比+7.6%の大幅増加となった。前年同期比でみても+19.4%と2割増に近い高水準を示している。

先行指標である機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は5月+6.9%のあと、6月も+3.6%と引き続いて増加を示し、4~6月では前期比+8.4%と、43年度中の四半期平均伸び率(+6.6%)を大きく上回る増加を示した。6月の動きを受注先業種別にみると、製造業は石油精製、化学工業、自動車などからの受注増加を中心に前月比+2.7%の増加、一方非製造業(船舶を除く)からの受注も鉱業、建設などを中心に+0.8%と小幅ながら前月に続いて増加を示した。なお、7~9月についても、4~6月実績見込み比+6.8%(実績との対比では+11.3%)と引き続き堅調な増加を示す見込み。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	43 年	44 年		44 年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	4月	5月	6月
民 需	1,860	1,893	2,142	1,965	2,323	2,138
	(+ 2.7)	(+ 1.8)	(+13.1)	(+ 2.2)	(+18.2)	(- 8.0)
同 (船舶を除く)	1,706	1,682	1,823	1,722	1,840	1,906
	(+ 3.3)	(- 1.4)	(+ 8.4)	(+ 2.7)	(+ 6.9)	(+ 3.6)
製 造 業	1,008	1,055	1,118	1,038	1,142	1,173
	(- 0.5)	(+ 4.6)	(+ 6.0)	(- 0.7)	(+10.0)	(+ 2.7)
非 製 造 業	860	850	1,012	880	1,206	949
	(+ 6.6)	(- 1.2)	(+19.0)	(+ 1.7)	(+37.0)	(- 21.4)
同 (船舶を除く)	725	627	700	652	721	727
	(+10.1)	(-13.6)	(+11.6)	(+ 3.6)	(+10.6)	(+ 0.8)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

◇商品市況は品目により区々ながら、需給地合いは底堅く推移

7月にはいつてからの商品市況は、品目によりかなり区々な動きを示している。すなわち、非鉄、石油、一部の基礎薬品等が堅調を示したほか、鉄鋼も強含み気配に転じた。反面繊維が反落、建材、砂糖等は弱含みとなった。

この間荷動きは、季節的事情などからユーザーの買い一服(繊維)もあって全般に活況に乏しいが、やや長い目でみれば、需給が引き締まりぎみである点に変化はうかがわれない。一部の品目については、国内需給のほか、海外需給の引き締まりが相場堅調の大きな要因となっており、たとえば銅の過剰輸出が銅市況反発の材料となっているほか、鋼板についても非米地域向けの輸出好調が市況をささえる要因となっている。今後も4~6月にみられたような主要商品の大部分に及ぶ需給の引き締まりが続くかどうかはやや疑問との見方もあるが、少なくとも目先軟化の気配はなく、商況の基調は引き続き底堅い動きをたどるものと思われる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……鋼板類、条鋼類とも月末にかけて再び騰勢に転じた。これは、メーカーが輸出の好調とひも付き需要の堅調を背景に店売り分の出荷を削

減していること(鋼板類)や、土工工事の活発化に伴う出荷の盛り上がり(条鋼類)などによるもので、市場には大手高炉メーカーの強気観が浸透、先高見越しから問屋間に売り渋りの動きが目だっている。

繊維……全般に値下がりした。7月上旬に予想されていた全織同盟のスト突入が避けられたためスト突入を見越して買い進んでいたユーザーが手当てを後退させたため、荷動きは凡調。もっとも、メーカーの7~9月糸市販は、比較的高値で一応終了した。

非鉄……堅調。銅は、過剰玉の輸出承認を契機に反発し、建値との値開きが縮小したほか、鉛も海外相場の急伸と、国内需要の堅調から値上がりした。

石油……生産調整の効果浸透からガソリンが強含みを示したほか、灯油についても例年より早めに販価引上げが行なわれた。またC重油についても大口ユーザー向けの価格引上げ交渉が続行されている。

セメント……7月前半は、長雨による出荷不ざえから弱含みを続けた。

木材……ユーザーが引き続き手当てを控えているため、荷動き凡調で市況は軟調。このため、大手商社は、米材について手持ち材を凍結するに至った。

化学品……硫酸、塩酸等基礎薬品のなかには強含みを示す品目が目だったが、合成樹脂のうち、これまで強調を続けてきた高圧ポリエチレンが農業用フィルムの不需要期入りなどから弱含みに転じた。

紙……上質紙は、増設設備の稼働に加え、不需要期入りから弱含みを示したが、段ボール原紙は、おう盛な需要にささえられて出荷好調で、メーカー在庫が適正水準を大きく割り込んでおり、強含みを示した。

砂糖……清涼飲料向け需要は盛り上がりつつあるが、いまひとつ力強さに欠け弱含み。

(6月の卸売物価——続騰)

6月の卸売物価は、総平均で前月比+0.4%と5ヵ月連続の上昇となった。この結果、年初来の上昇率は、+1.3%となった。6月の上昇は、これまでと同様に鉄鋼(鉄くず、銑鉄、棒鋼等)、非鉄金属(銅地金)のじり高のほか、食料品(豚肉、鶏卵、干のり等)の急騰が主因となっている。このほかでは、繊維品(綿糸、生糸)、金属製品(サッシ、ドア)、機械器具(バルブ、ボイラー)、窯業製品(タイル、耐火れんが)、紙・パルプ・同製品(段ボールシート、白板紙)が小幅上昇したが、石油・石炭・同製品(原油、原料用炭)が反落、木材・同製品(原木、製材)は続落した。産業別分類でみると、工業製品が前月比+0.3%上昇(大企業性+0.2%、中小企業性+0.4%)し、非工業製品も食料品、くず鉄等の高騰から同+0.8%とかなりの上昇となった。

7月にはいつてからは、上・中旬とも前旬比+0.1%上昇した。上旬には、4～6月に急騰し

た鉄鋼がやや落着きをみせたが、中旬には再び上昇、非鉄金属も騰勢を持続した。一方、繊維品は上旬に微騰のあと中旬には反落、化学品は続落、金属製品、機械器具も弱含みとなった。

(6月の工業製品生産者物価——続騰)

6月の工業製品生産者物価は、前月比+0.2%上昇した。これは、天然および化学繊維が続騰し、合成繊維も20ヵ月ぶりの上昇となったほか、普通鋼鋼材、非鉄金属、窯業製品等がかなりの上昇となったため。一方、輸送機械、電気機械器具、木材・同製品は微落した。

(7月の消費者物価(東京)——季節商品を中心に急騰)

7月の消費者物価(東京)は、総平均で前月比+2.2%と急騰、前年同月を+7.8%上回った。これは、天候不順による生鮮魚介、野菜、くだもの等季節商品の暴騰(前月比+21%)によるところが大きい。季節商品を除いてみても前月比+0.4%、前年同月比+5.4%とかなりの上昇となっている。品目別には、食料費が上記季節商品のほ

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	下 降 期 (ピーク 43/2) 43/2 →43/7	上 昇 期 (ボトム 43/7) 43/7 →44/6	最 近 の 推 移									
				44 年			44 年 6 月			44 年 7 月			
				4 月	5 月	6 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬		
総 平 均	100.0	－ 0.9	＋ 2.3	＋ 0.3	＋ 0.3	＋ 0.4	＋ 0.2	－ 0.1	＋ 0.1	＋ 0.1	＋ 0.1		
食 料 品	15.7	＋ 1.8	＋ 4.8	＋ 0.3	＋ 0.1	＋ 1.1	＋ 0.5	保 合	＋ 0.1	＋ 0.1	＋ 0.3		
繊 維 品	10.7	－ 1.7	－ 1.6	保 合	＋ 0.7	＋ 0.2	＋ 0.3	－ 0.1	保 合	＋ 0.1	－ 0.5		
鉄 鋼	9.7	－ 1.7	＋ 6.3	＋ 2.1	＋ 2.2	＋ 1.1	＋ 0.4	－ 0.1	＋ 0.1	保 合	＋ 0.2		
非 鉄 金 属	4.4	－ 9.5	＋ 14.2	＋ 3.0	＋ 1.5	＋ 1.2	＋ 0.3	＋ 0.5	＋ 1.2	＋ 0.3	＋ 0.4		
金 属 製 品	3.8	－ 0.6	＋ 2.9	＋ 0.3	＋ 0.3	＋ 0.6	＋ 0.1	＋ 0.2	＋ 0.3	－ 0.2	保 合		
機 械 器 具	22.1	＋ 0.3	－ 0.3	－ 0.1	保 合	＋ 0.2	＋ 0.2	保 合	保 合	－ 0.1	保 合		
石 油・石 炭	5.6	－ 4.1	－ 0.8	保 合	＋ 0.2	－ 0.2	保 合	－ 0.1	－ 0.3	－ 0.2	＋ 0.1		
木材・同製品	6.2	－ 1.2	＋ 2.1	－ 1.2	－ 0.8	－ 1.1	－ 0.5	－ 0.4	＋ 0.1	＋ 0.3	＋ 1.5		
窯 業 製 品	3.0	＋ 0.8	＋ 1.9	＋ 0.3	保 合	＋ 0.2	＋ 0.4	保 合	＋ 0.1	＋ 0.1	保 合		
化 学 品	7.6	－ 1.6	－ 0.4	＋ 0.1	－ 0.2	保 合	保 合	保 合	保 合	－ 0.1	－ 0.2		
紙・パ ル プ	3.4	－ 0.6	＋ 1.1	＋ 0.4	＋ 0.2	＋ 0.2	保 合	＋ 0.1	＋ 0.1	＋ 0.2	保 合		
雑 品 目	7.9	同水準	＋ 2.6	＋ 0.2	＋ 0.1	保 合	保 合	－ 0.1	－ 0.1	保 合	＋ 0.1		
工 業 製 品	82.0	－ 0.5	＋ 1.8	＋ 0.4	＋ 0.3	＋ 0.3	＋ 0.1	保 合	＋ 0.2	保 合	保 合		
うち 大 企 業 性	59.6	－ 0.5	＋ 1.0	＋ 0.4	＋ 0.3	＋ 0.2							
中小企業性	21.0	－ 0.1	＋ 3.2	＋ 0.3	＋ 0.3	＋ 0.4							
非 工 業 製 品	18.0	－ 2.4	＋ 3.9	保 合	＋ 0.3	＋ 0.8	＋ 0.4	－ 0.2	保 合	保 合	＋ 0.9		

(注) 本行調べ。

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度 比上昇 率 43年度 平均	最近の推移			
			44 年			
			3 月	4 月	5 月	6 月
総 平 均	100.0	+0.3	保 合	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.2
食 料 品	12.6	+5.7	+ 0.3	+ 0.1	- 0.1	+ 0.2
天然および化学繊維	3.0	-4.7	- 1.4	+ 0.4	+ 0.9	+ 1.3
合 成 繊 維	1.4	-6.4	- 0.3	- 0.1	- 0.3	+ 0.1
織 物	2.8	-0.5	- 0.4	保 合	+ 0.1	+ 0.7
繊維二次製品	3.2	+5.3	- 0.1	+ 0.1	+ 0.2	保 合
普通鋼鋼材	7.2	-5.3	+ 0.2	+ 1.1	+ 2.3	+ 1.5
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	保 合	保 合	+ 0.2	+ 0.5
非鉄金属	4.4	-0.5	- 0.4	+ 2.8	+ 1.9	+ 0.7
金属製品	4.6	+0.6	- 0.1	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.3
一般機械	10.4	+2.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1
輸 送 機 械	8.3	-1.6	保 合	- 0.4	- 0.1	- 0.2
電気機械器具	9.1	-1.0	- 0.2	保 合	保 合	- 0.1
石油・石炭製品	3.7	-1.3	- 0.5	- 0.3	- 0.1	+ 0.1
木材・同製品	5.0	+5.1	- 0.2	- 0.6	- 0.5	- 0.6
窯業製品	3.4	+0.9	- 0.2	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.7
化 学 品	7.8	-2.6	+ 0.3	保 合	- 0.1	保 合
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1	保 合	+ 0.5	- 0.1	+ 0.2
雑 品 目	6.1	+0.2	+ 1.8	+ 0.1	- 0.2	- 0.3

(注) 本行調べ。

か、乾物、飲料、菓子等の値上がりから前月比 +5.0%と大幅に上昇し、前月下落した被服費、雑費もそれぞれ +0.3%、+0.2%と反騰した。一方、住居費、光熱費は前月比保合に推移した。

(6月の輸出入物価——輸出入物価ともかなり上昇)

6月の輸出物価は、前月比 +0.5%と1ヵ月の上昇幅としては、38年6月(同 +0.5%)以来の大幅上昇となった。これは、食料品(冷凍めかじき)が大幅に上昇したほか、繊維品(衣類)、金属・同製品(鉄鋼)、機械(船舶)、化学品(ポリエチレン)等が軒並み統騰したため。

輸入物価は、前月比 +0.3%上昇した。これは、鉄くず、銑鉄、非鉄鉱石・地金を中心に金属製品がかなり上昇したため。反面、食料品(原綿・毛)、機械器具、鉱物性燃料(石油製品)等は下落した。

この結果、交易条件指数は、前月比 +0.2ポイント上昇した。

消費者・輸出入物価の推移

(単位・%)

		ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率			最近の推移			最 近 の 年 月 同 比
			42 年 平 均	43 年 度 均	44 年	5 月	6 月	7 月	
消 費 者	東 京	総 合	100.0	+4.1	+5.2	-0.2	+0.1	+2.2	+ 7.8
		(季節商品 を除く)	91.4	+3.9	+5.6	+0.4	+0.2	+0.4	+ 5.4
		食 料	40.9	+5.7	+6.5	-1.4	+0.2	+5.0	+12.3
		住 居	10.7	+3.7	+2.4	+0.2	+0.3	保 合	+ 1.7
		光 熱	4.5	+0.1	+0.3	-0.1	+0.2	保 合	+ 0.4
		被 服	13.0	+3.0	+5.5	-1.3	-0.4	+0.3	+ 4.6
		雑 費	31.0	+3.4	+5.3	+1.5	-0.1	+0.2	+ 6.1
物 価	全 国	総 合	100.0	+4.2	+4.9	+0.1	+0.2		+ 5.8
		(季節商品 を除く)	91.4	+3.9	+5.3	+0.5	+0.3		+ 5.1
		総 合	100.0	+4.1	+4.9	保 合	+0.2		+ 6.2
輸 入 物 価	上 の 都 市 以 上	(季節商品 を除く)	91.3	+3.9	+5.3	+0.5	+0.2		+ 5.3
		輸 出		+0.2	+0.6	+0.3	+0.5		+ 2.5
		輸 入		-0.4	-0.3	+0.9	+0.3		+ 3.3
		交易条件		+0.7	+0.9	-0.5	+0.2		- 0.7

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

◇国際収支は依然好調

6月の国際収支は、総合で282百万ドルと過去最高の黒字を実現し、依然好調を持続した。これは貿易収支が輸出の好伸(前年同月比 +26.6%)から大幅な黒字(337百万ドル)となったのに加えて、長期資本収支も外人投資家による証券投資の増大を主因に53百万ドルの大幅黒字となったことによるものである。

貿易収支を季節調整後でみると319百万ドルの黒字となり、本年3月以降引き続き3億ドルをこえる大幅黒字を維持している。

長期資本収支は、5月に52百万ドルの黒字となったあと、6月はさらに53百万ドルと引き続き大幅な黒字となった。これは本邦資本の流出超額が船舶輸出の伸長に伴う延払信用供与の増大や国際機関(第2世銀)への出資などから109百万ドルと増加をみた(前月77百万ドル)ものの、外国資本の流入超額が162百万ドル(過去最高)とさらに大幅な増加を示したためである。外国資本流入の内容をみると、外国人投資家による対日証券投資が著増^(注)した(グロス流入額、4月118、5月152、

6月238各百万ドル)のが目だち、また借款および外債発行も高水準を続けた。

(注) 外人投資の急増の背景としては、①本年4月の米国利子平衡税率引下げ(18.75→11.25%)による米国機関投資家の買い、②外人投資家に人気のあるソニー株の取得認可再開によって、かつて受付停止となったことのある人気銘柄等に投資が殺到したこと、などがあげられる。投資対象銘柄としては、電機株を中心に損保株、銀行株など広範囲にわたっており、投資単位も大口化している。

もっとも、外国人投資家による対日証券投資は7月にはいり一服状態となっており、また海外金融市場のひっ迫から外債発行も一段と困難になってきている。

金融勘定では、海外金利高に伴う海外短資の返済が引き続き多額に上ったことを主因に、為銀の対外ポジションは6月中252百万ドルと前月(216百万ドル)を上回る大幅な改善を示し、月末の債務超過額はわずか99百万ドルにまで縮小した。一方、外貨準備高は月中12百万ドル減少して3,089

百万ドルとなった。

6月の輸出の対前年同月比増加率は+26.6%とかなり持ち直した(5月は+14.3%)が、これは4月、5月と伸び悩んだ船舶輸出が6月に集中した(通関ベース、4月87、5月46、6月107各百万ドル、前年6月64百万ドル)ほか、韓国向けの米の輸出が5月に引き続いて行なわれた(21百万ドル)ことが響いたものである。ちなみに、これら二つの要因を除いた通関ベースの前年比増加率は+22.3%となり、依然高水準ではあるが、ここも増勢はやや鈍化傾向にある(43年10~12月+34.7%、44年1~3月+30.0%、4~6月+22.1%)。

品目別の輸出動向(通関ベース、前年比)をみると、船舶の著増(+67%)に加え、自動車の増勢回復(+33%)もあって機械機器の伸びが著しかった(+39%)ほか、韓国向け米の貸与(3~5月66百万ドル、6月21百万ドル)から食料品の伸びも引き続き高率(+100%)であったが、反面鉄鋼が対米自主規制の実施が響いてやや伸び悩んだ(+14%)ほか、化学肥料(-73%)、綿織物(-10%)も不振であった。地域別には、アフリカ向けが船舶を中心に好伸(+151%)したほか、ソ連向けも鉄鋼を中心に引き続き高い伸びを維持(+45%)したが、主力の米国向けは、前月同様、鉄鋼(-16.4%)、毛織物(-29.5%)の不振に加え、自動車の

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出信用 状	輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入			
43年 7~9月	1,074	868	206	1,098	1,107	881	1,162	997
10~12月	1,157	894	263	1,174	1,142	956	1,234	1,047
44年 1~3月	1,224	907	317	1,248	1,147	1,024	1,254	1,063
4~6月	1,274	921	353	1,300	1,156	1,039	1,348	1,238
44年2月	1,169	897	272	1,194	1,123	1,070	1,201	999
3月	1,275	919	356	1,310	1,162	964	1,347	1,078
4月	1,248	860	388	1,278	1,077	1,028	1,316	1,344
5月	1,263	909	354	1,275	1,148	1,030	1,336	1,171
6月	1,312	993	319	1,347	1,243	1,060	1,392	1,200

(注) 1. 季節調整はセンサス局法による。
2. 四半期計数は月平均額。

国際収支

(単位・百万ドル)

	43年	44年		44年			前年 6月
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	4月	5月	6月	
経常収支	648	177	544	228	109	207	131
貿易収支	1,020	607	926	352	237	337	236
輸出	3,743	3,283	3,800	1,243	1,249	1,308	1,033
輸入	2,723	2,676	2,874	891	1,012	971	797
貿易外収支	△ 325	△ 377	△ 325	△ 105	△ 114	△ 106	△ 90
移転収支	△ 47	△ 53	△ 57	△ 19	△ 14	△ 24	△ 15
長期資本収支	△ 118	△ 47	△ 86	△ 19	△ 52	△ 53	△ 44
基礎的収支	530 (297)	224 (567)	630 (765)	209 (245)	161 (278)	260 (242)	175 (147)
短期資本収支	84	7	6	20	28	2	10
誤差脱漏	△ 27	△ 61	△ 1	△ 45	△ 22	△ 24	△ 16
総合収支	587	278	637	144	211	282	181
金融勘定	587	278	637	144	211	282	181
外貨準備増	531	322	△ 124	△ 110	△ 2	△ 12	57
その他	56	△ 44	761	254	213	294	124
外貨準備高	2,891	3,213	3,089	3,103	3,101	3,089	1,976
為銀対外 ポジション	△ 789	△ 830	△ 99	△ 567	△ 351	△ 99	△ 1,022

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

伸び悩み(+2.5%)などが響いて+21%(1~3月+28%、4~6月+21%)と引き続き平均以下の伸びにとどまった。

この間先行指標である輸出信用状接受額をみると、6月は前年比で+28.6%と持ち直し(4月+24.3%、5月+16.4%)、また季節調整後でも前月比+2.9%とかなりの伸びとなったが、年初来ならしてみると伸び悩みの傾向がうかがわれる(季節調整後前期比、1~3月+7.1%、4~6

月+1.5%)。品目別の内容(前年比)をみると、鉄鋼(+46%)、化学製品(+30%)等の増勢回復に対し、自動車(+13%)、繊維(+12%)等の伸び悩みが目だっている。

一方、輸入面をみると、6月は前年同月比+20.5%とかなりの増加を示した(5月は+9.2%)。もっとも、これにはケネディ・ラウンドによる関税引下げ実施(昨年7月)を前に昨年6月の

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	43年	44 年		44 年		
	10~ 12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月
食 料 品	487 (+ 7)	504 (+ 9)	515 (+ 6)	165 (+ 8)	186 (+ 6)	164 (+ 5)
小 麦	73 (+ 1)	72 (- 2)	75 (+ 9)	25 (+ 7)	27 (+ 17)	23 (+ 2)
とうもろこし	63 (+ 9)	59 (+ 1)	63 (- 6)	19 (- 4)	24 (- 9)	20 (- 4)
砂 糖	32 (+ 12)	53 (+ 16)	41 (- 6)	16 (- 10)	13 (- 19)	12 (+ 21)
原 燃 料	1,965 (+ 9)	1,919 (+ 7)	2,033 (+ 6)	629 (- 1)	708 (+ 4)	696 (+ 15)
羊 毛	93 (+ 19)	99 (+ 20)	98 (+ 2)	31 (+ 10)	37 (+ 13)	29 (- 16)
綿 花	116 (+ 32)	108 (- 14)	115 (- 26)	36 (- 31)	35 (- 38)	44 (- 2)
鉄 鉱 石	219 (+ 22)	218 (+ 17)	244 (+ 12)	75 (+ 1)	80 (+ 3)	89 (+ 34)
鉄鋼くず	54 (- 25)	32 (- 19)	42 (+ 25)	12 (+ 1)	18 (+ 51)	13 (+ 23)
大 豆	70 (- 3)	66 (- 6)	69 (+ 1)	21 (- 16)	25 (+ 2)	23 (+ 23)
木 材	297 (+ 16)	265 (+ 6)	331 (+ 5)	99 (- 4)	111 (+ 2)	120 (+ 18)
石 炭	135 (+ 25)	149 (+ 22)	157 (+ 25)	47 (+ 11)	55 (+ 30)	55 (+ 34)
原 油	454 (+ 3)	464 (+ 11)	451 (+ 10)	149 (+ 8)	158 (+ 13)	144 (+ 8)
化学製品	193 (+ 16)	185 (+ 12)	194 (+ 23)	61 (+ 12)	65 (+ 12)	68 (+ 52)
機械機器	350 (+ 23)	364 (+ 10)	404 (+ 19)	126 (+ 19)	138 (+ 15)	141 (+ 25)
鉄 鋼	75 (- 30)	66 (+ 3)	52 (+ 2)	16 (- 18)	24 (+ 25)	12 (- 2)
非鉄金属	190 (+ 13)	212 (+ 32)	206 (+ 35)	62 (+ 42)	79 (+ 18)	65 (+ 54)
そ の 他	187 (+ 30)	172 (+ 19)	196 (+ 32)	60 (+ 31)	65 (+ 21)	71 (+ 45)
合 計	3,445 (+ 10)	3,422 (+ 10)	3,600 (+ 11)	1,119 (+ 6)	1,263 (+ 7)	1,218 (+ 19)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	43年	44 年		44 年		
	10~ 12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月
食 料 品	128 (+ 19)	103 (- 1)	171 (+ 91)	59 (+ 104)	59 (+ 74)	54 (+ 100)
魚 介 類	85 (+ 22)	53 (- 26)	57 (+ 10)	19 (+ 10)	18 (- 9)	20 (+ 34)
繊維製品	613 (+ 27)	472 (+ 29)	561 (+ 16)	180 (+ 19)	196 (+ 16)	185 (+ 12)
綿 織 物	74 (+ 7)	51 (+ 12)	56 (- 5)	19 (+ 3)	19 (- 7)	18 (- 10)
合繊織物	131 (+ 30)	97 (+ 41)	121 (+ 33)	40 (+ 40)	42 (+ 30)	39 (+ 28)
化学製品	231 (+ 33)	200 (+ 34)	225 (+ 9)	73 (+ 12)	75 (+ 9)	77 (+ 7)
非金属 鉱物製品	95 (+ 22)	85 (+ 20)	99 (+ 20)	32 (+ 16)	34 (+ 23)	33 (+ 22)
金属製品	663 (+ 33)	604 (+ 25)	695 (+ 19)	221 (+ 21)	241 (+ 22)	234 (+ 14)
鉄 鋼	480 (+ 37)	448 (+ 27)	508 (+ 19)	160 (+ 19)	178 (+ 26)	170 (+ 14)
機械機器 (船舶を除く)	1,673 (+ 36)	1,547 (+ 33)	1,690 (+ 24)	565 (+ 30)	521 (+ 7)	604 (+ 39)
テレビ	86 (+ 87)	61 (+ 56)	83 (+ 47)	26 (+ 68)	29 (+ 44)	29 (+ 35)
ラジオ	131 (+ 35)	106 (+ 46)	136 (+ 40)	44 (+ 55)	45 (+ 26)	47 (+ 42)
自動車	213 (+ 65)	221 (+ 61)	235 (+ 32)	84 (+ 44)	73 (+ 18)	77 (+ 33)
船 舶	271 (+ 2)	316 (+ 13)	240 (- 5)	87 (- 6)	46 (- 53)	107 (+ 67)
光学機器	109 (+ 28)	89 (+ 22)	111 (+ 23)	36 (+ 23)	37 (+ 13)	38 (+ 34)
そ の 他	406 (+ 26)	344 (+ 26)	436 (+ 21)	136 (+ 20)	150 (+ 20)	150 (+ 24)
合 計	3,807 (+ 32)	3,355 (+ 29)	3,878 (+ 22)	1,266 (+ 26)	1,275 (+ 15)	1,336 (+ 27)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

輸入が異常に低水準であったことも響いているが、こうした前年の不規則な動きを調整してみても、本年6月の輸入増加率は前年同月比15~16%程度となり、増勢が強まっている(季節調整後の前月比は、5月+5.7%、6月+9.2%)。

商品別の輸入動向(通関ベース、前年比)をみると、食料品(+5%)、繊維原料(羊毛-16%、綿花-2%)、原油(+8%)等が引き続き落ち着いているものの、鉄鋼原料(鉄鉱石+34%、石炭+34%など)、非鉄(+54%)等のほか、年初来落着きぎみに推移してきた大豆(+23%)、木材(+18%)、化学製品(+52%)、機械(+25%)等の増勢が目だっている。

先行指標である輸入承認額をみると、上記国際収支ベースの場合と同様の事情により前年同月

の水準が低かった関係もあって、6月は前年比+32.0%と目だった増加を示した(前年比、1~3月+15.3%、4~6月+30.4%)。これを季節調整後でみると、4月の急増(特殊な大口契約分があったため)の反動から、5月に前月比-12.9%の大幅減少をみた(かかる特殊要因を除けば5月は前月比+5.5%)あと、6月は同+2.5%と増勢をやや回復している。

5月の輸入素原材料在庫率(季節調整後)は、引き続き低下(前月比-2.2%)して92.1となった。これは生産の増大に伴って輸入素原材料消費が増加した(季節調整後、前月比+1.0%)一方、輸入素原材料在庫が減少した(同-1.2%)ことによるものである。